別紙様式2（高）

令和3年度　県立取手第二高等学校自己評価表

目指す学校像	(1) 生徒一人一人が個性を発揮し、主体的に活動する学校　(2) 社会で生きていくために必要な資質・能力を身に付けることができる学校　(3) 自己のキャリアについてしっかり考え、目標に向けて果敢にチャレンジできる学校　(4) 家庭・地域社会との相互理解を図り、家庭・地域の信託に応える開かれた学校　(5) 教職員相互が指導力の向上及び環境の整備を図り、一致協力して組織的かつ計画的に教育活動を展開できる学校

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
〈成果〉 進学希望者は毎年80％程度であり、大学短大への進学希望者は30％を超えて増加傾向にある。生徒の自己管理と自律を促す多様な取組として、スケジュール管理のための手帳、学習課題配信用のウェブ学習ツールの全校導入など、継続的に行っている。また、年間の学校生活のまとめとして、生徒が各自の1年間の取組を振り返り自他ともに評価する「学びの総括」を全校で実施しており、代表者の発表に刺激を受け、明確な目標を持って学校生活を送る意識が醸成されている。昨年度の大学短大進学は27.0％であり、専門学校を含め78.9％が上級学校への進学を果たした。 学校行事では、文化祭、クラスマッチについて生徒による事後評価を行い、文化祭で「(たいへん)満足」90.8％、クラスマッチで「(たいへん)満足」88.6％と、いずれも生徒の高い自己評価を得た。 〈課題〉 基本的生活習慣が身に付いている生徒がほとんどであるが、いっそうの規範意識の向上が求められる。進路に関しては、具体的な進路希望先の決定が遅い生徒も見受けられる。そこで、3年間を見通した進路指導計画に基づき、早期からの段階的な指導など、生徒の自己理解の促進とともに適切な進路選択とその実現に向けた継続的な支援が必要である。そのため、学年や段階に応じた進路指導を工夫したい。学校行事に限らず、学校生活全般において、生徒による自己評価を反映させるPDCAサイクルの体制整備に努める。	学習意欲を向上させるための授業実践	①ICTを取り入れ、生徒が主体的に学べる授業形態の工夫や充実を図る。	B
		②生徒の実態を踏まえた課題や内容の精選、効果的な指導方法を検討し実践する。	B
		③少人数授業、課外指導等を実施し、個に応じた発展的な学びを推進して学習意欲を高め、入試や資格試験に対応できる学力の向上を目指す。	B
		④授業規律の確立を図り、チャイムと同時に授業が始まり、終わるよう徹底する。	A
	社会で通用するマナーやルールを身に付けさせる生徒指導	⑤時間を守り(時)、礼を尽くし(礼)、身だしなみや周囲の環境を美しく保つ(美)の徹底を図る。	B
		⑥段階的指導を有効に活用し規範意識を高めるとともに、公共の場におけるマナーを身に付けさせる。	B
	キャリア教育の推進	⑦各種進路行事や課外の在り方を検討し、個に応じた進路指導の推進を図る。	B
		⑧デュアルシステムやインターンシップなどの実践により、職業意識の高揚を図る。	B
		⑨様々の教育活動や行事等と関連付けながら、個々のキャリアプランニング能力を高め、3年生の時点で進路希望未決定者を0％にする。	B
	豊かな心の育成	⑩「道徳」や学校行事を通して、他者や社会、自分と異なる世界との関わりを学び、人間関係構築力やコミュニケーション力を養う。	B
		⑪集団の一員として他人の立場を尊重し、思いやりの心で人と接することができるようにする。	B
	特別活動の活性化	⑫HRや学校行事等においてキャリアパスポートを活用し、自らの高校生活のあり方や振り返りを通して、自己理解の深化と将来について主体的に学び考える力を育む。	B
	部活動の活性化	⑬活発な部活動を積極的に評価することで自尊感情・活動意欲を高め、部活動の加入率の上昇と活性化を図る。	A
	働き方改革の推進	⑭現行の業務内容について点検・見直しを行い、スクラップアンドビルドによる業務改善に取り組み、勤務時間の適正化に努める。	B
		⑮ICTの活用による情報の共有化や会議の効率化を図る。	A
		⑯「部活動等の活動方針」により、実施環境を整備・構築する。	B

三つの方針	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)	・自ら考え行動し、他者と協力して課題が解決できる人財 ・自己実現に向けて、ひたむきに努力ができる人財 ・地域を支える核となって活躍する、社会に貢献できる人財	B	・卒業時に望まれる姿から逆算した、授業等に取り組む目標の設定
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	・個に応じた学習形態(少人数、TT等)による学力の向上 ・協働的な体験学習の中で成功体験を積み重ね、自尊感情や自己肯定感を高める ・文・理・家政系それぞれのニーズに合わせた知識・技能の習得とキャリア教育により、多様な進路希望の実現	B	・教育活動のビジョンを学校外の関係者・諸機関と共有するための体制構築
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	①主体的に取り組む姿勢を持ち、学習や部活動、特別活動に積極的に参加する意欲のある生徒 ②学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、自分の進路実現を目指して日々努力する生徒 ③家庭科の学習に興味を持ち、専門的な知識や技術を身につけるよう積極的に取り組む強い意欲のある生徒	B	・入学希望者や中学校関係者に対し、学校が期待する生徒像を明示

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
国語	「分かる授業」の実践をする。	十分な教材研究に基づいた「分かる授業」を実践するとともに、生徒が知的好奇心をもち自ら積極的に参加する授業を目ざし、ICTを取り入れる等の工夫を行う。①　②	A	A	・本年度から採用のデジタル便覧について、授業内での使用率の向上と、デジタル便覧の利点の有効活用 ・オンライン授業が増えた場合でも「書く」指導ができるよう、wordやgoogleドキュメントの指導法の研究 ・家庭学習や読書習慣につながるような授業の計画と実行
		小テストや作品づくりなどを通し、生徒の理解度を細かに把握し、授業の展開や評価に活かす。①	A		
	基礎学力の定着を図る。	授業の充実及び学年等と連携した課外授業の実施を通して、読解力や実社会・上級学校に通用する言語運用能力の向上を図る。④⑤⑥	A		
		漢字検定を年3回実施し、漢字力や語彙力の向上を支援する。②	B		
		新聞の活用や読書指導を実践し、読書習慣を身に付けさせるとともに、「書く」指導を充実させ、自己表現力を身に付けさせる。①	B		
		各研修会等に積極的に参加し、自己研鑽に努め、授業実践力の向上を目指す。①②	B		

別紙様式2（高）

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
地歴公民	基礎学力の定着を図り、社会的事象への関心を持たせる。② ④	生徒の実態に即した授業を展開することによって授業に集中させし、理解力を高める。②④	B	B	・授業を通しての、生徒の社会に対する意識・興味の高揚。 ・生徒が授業に参加して、社会的資質を養えるような授業内容と展開の工夫
		副教材を活用し、興味・関心を高め、自ら判断し、授業に取り組めるようにする。③	B		
	生徒が自ら考え、主体的に授業に取り組めるよう指導を行う。① ③	視聴覚教材・インターネットなどを活用し、社会的事象に興味を抱かせる。①	A		
		グループ学習やレポートの発表など生徒が主体的に参加する授業形態を取り入れる。③	B		
		適切な発問や課題を通じて、自らの考えを表現する力を養う。③	B		
数学	ICTを活用し，主体的に学ぶ姿勢を育成する。	電子黒板やタブレットを活用し，問題演習にとどまらず、他者に説明する機会や、自分の考えを深める（記述する）機会を増やし、主体的に学ぶ姿勢（客観的・論理的に物事を説明する力）を身に付けさせる。①④	A	B	・今年度入学生からの、1人1台タブレット所持の学習環境での、タブレット活用を通していかに主体的に学ぶ態度を身に付けられるかの継続的な研究 ・タブレットの活用による、生活との関連を重視した学習の展開と、数学的に物事を解決する力の育成 ・個に応じた学習を行う機会の確保 ・確かな学力が身につけられるような指導計画
	身近な事象や課題を、数学を用いて解決する力を養う。	身近な題材を用いた問題を扱い、生活との関連を重視した学習を行うことで、数学的に物事を解決する力を身に付けさせる。②	B		
	少人数授業，課外指導等を通し，基礎学力の向上を図り、大学入試にまで対応できる力をつける。	少人数授業，課外指導等を実施し，個に応じた学習支援を行うとともに，小テストの実施、放課後の補習・宿題等で確かな学力を身に付けさせる。発展的問題に取り組ませ、大学入試に対応できる学力の向上を目指す。③	B		
理科	科学的リテラシー、学習事項の基礎基本の定着と上級学校へ向けた学力育成に努める。（知識・技能）	スタディサプリの活用を研究し、効果的な学習方法が展開できるよう援助する。①②③	A	B	・コロナ禍でのICT活用による学習指導における、生徒の主体的な学びを深める指導法と、学習評価の研究 　新教育課程の限られた授業時間での実験・実習の取り入れ方の工夫
		個に応じた進学課外授業を実施する。③	B		
	生徒の主体性を育成できるような授業展開に努める。（学びに向かう力）	日常生活との関連や、授業の目的の明確化により、能動的な学びを展開する。①②	B		
		相互授業参観を2回以上行い、教科間で情報の共有や指導法の相互評価を行うことで授業力の向上を図る。①②③	C		
		アクティブラーニングの手法を用いた学習を実践する。また、それに伴う教具を準備する。①②	A		
	学習事項と日常の科学的事象とを結びつけて考えられる力を育成する。（思考力・判断力・表現力）	振り返りシートを簡素化し学習内容を文章で表現し、興味関心を持った内容や授業での思考力を必要とする気づきや疑問点をまとめられる力を育成する。②③	A		
		アプリ(ソフト)やデジタル機器(ハード)を利用した教材の研究と活用を進める。①	A		
	観点別評価を行うことで、生徒の資質を多様な側面から評価できるよう努める。	定期考査における評価を観点別に行う。②	B		
		振り返りシート、レポート、小テスト、パフォーマンステストなど、多様な評価を行うとともに、定期考査で評価する観点を明確にする。②③	A		
保健体育	体力の向上を図る。	準備体操にオリジナルダンスの創作と導入をおこない、主体的・協働的な活動と体力の維持・向上を図る。①②	A	B	・感染症対策と活動の質を高める方法の研究 ・ワークシート活用方法の発展（体育） ・集団的活動を通した気遣いある関係構築と集団帰属意識の向上 ・ICTを活用したグループワークの導入（保健）
		体力テストの結果から、次年度の改善策を検討する。①②	B		
	主体的に集団活動をおこなう中で、課題解決能力の向上を図る。	各種目・各講座において、スキルテストの統一実施を行う。①④	A		
		挨拶、準備、片付け、集団行動に力を入れる。④⑪	B		
		体育のワークシートやグループ学習を取り入れ、生徒が自ら考え、意見を共有する場をつくる。⑩⑪	A		
		プリントやノートを定期的に点検し、学習習慣定着支援をおこなう。①⑫	B		
芸術	表現領域をより深め、創造的な能力を高める。	幅広い教材を扱い、多様な技術や表現方法に触れ、表現技能の基礎を育成する。②	A	B	・表現領域と鑑賞領域を関連付けた学習の研究
		表現方法を工夫しながら、生徒の個性を生かした創造的な表現活動を支援する。①②	B		
	鑑賞領域を充実させ、芸術文化についての理解を深める。	日本や世界の様々な芸術作品に触れ、よさや美しさを味わうことで、鑑賞意欲を育てる。①②	A		
		作品について自分の言葉で表現すること、また他者の思いを感じ取ることで、鑑賞の能力を高める。②	B		

別紙様式2（高）

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
外国語	すべての学力層や様々な進路に対応するため指導方法を工夫する。	生徒全体の基礎学力を向上させるため、小テストや単語テストを継続的に実施し、4技能の基礎としての語彙力・文法知識の定着を図る。②	B	B	・生徒主体の授業展開に資するような、ICT活用の研究 ・課外授業の参加促進、授業時間以外での個別の質問対応など生徒の自主性の育成 ・生徒が自主的に学べる環境（教材の充実、セミナー・イベントへの参加）づくりの推進 ・自主学習、家庭学習などの学習習慣の確立に向け、授業期間外の学習課題など、授業期間と連続した学習支援の強化
		大学進学対策や英検指導など生徒の進路に応じた課外授業を実施し、実態に即した支援を行う。③	B		
	自主学習・家庭学習の定着を図る。	授業は予習・復習を前提とし、デジタル教科書等を活用することで生徒が主体的に学べるような授業形態の工夫を図る。①	B		
		定期考査の計画的な対策や事後の振り返りなど、目標や計画に基づいて自主的に学習に取り組む意識の高揚を促す。②	B		
		課題配信や視聴の促進等、スタディサプリの効果的な活用を通して自主学習・家庭学習の定着を図る。①②	C		
	英語コミュニケーション能力を高める授業を工夫する。	ICTの活用およびALTとのチーム・ティーチングを通して4技能を総合的に高める指導を工夫し、実践的コミュニケーション能力の育成を図る。①②	B		
		グループやペアによる言語コミュニケーション活動を用いた生徒主体の授業を積極的に展開する。①	C		
家庭	知識と技術の定着・向上を図る。	家政科においては、技術検定等の資格取得（上級合格）を目指し、特に家庭科技術検定では1級3冠王を輩出する。②③	A	A	・実技の習得・技術向上に向けた指導 ・教員間での情報共有と、指導力向上・ICTの活用、実技向上のため研修実施 ・コロナ禍だからできること、できないことの見極めと、コロナ禍の環境を生かしての活動 ・コンテスト等への積極的な参加促進
		個々の生徒の到達度を把握し、きめ細やかな支援を徹底する。②	A		
		家庭での反復学習の指導、計画的な補習を行う。①②	A		
	教員の指導力と管理能力の向上に努める。	日々教材研究に努め、正確かつ最新の情報を授業に取り入れるよう努める。⑭⑮	B		
		専門科目を教える自覚を持ち、自身の技術向上のために日々研修に励む。⑭⑮	A		
		包丁や裁ちバサミなど実習道具の安全管理に努める。⑭	A		
	地域との連携強化に努める。	学校家庭クラブ活動を活発にする。⑪	A		
		子育て支援、家庭教育支援を行う。⑧⑪	A		
		TORINYブランドのPR及び学校通信等を通じて本校家政科の広報活動を行う。⑩	A		
	進学指導の充実に努める。	大学出前講座やマイスター制度を利用し、進学意識を高める。⑦⑨	A		
		デュアルシステムを導入し、生活産業への理解を深めさせる。⑧	B		
		キャリア教育を教科指導に導入し、職業観を培う。⑨	B		
		家政系の大学への進学を意識づけるよう、情報提供を行う。⑧⑨	A		
情報	基礎学力の向上を図る。	パソコンの実習を通して、基本的な操作の習得・習熟に努める。①②	A	B	・臨時休業中の各家庭でICT環境が異なる状況での統一的な指導のあり方 ・次年度からの新教育課程移行の準備、従来との内容の大きな変更に伴う今後の更なる研修 ・新教育課程の下でも可能な限り、年間を通じた文章入力練習や、ICT活用の能力育成を意識した学習活動の設定
		振り返りシートを用いて毎時間の達成状況を把握し、個別の指導に生かす。②③	A		
		プレゼンテーション能力向上を目指す指導を強化して情報的表現力の向上に努める。②③	B		
		ビジネス文書実務検定試験の受験を通じて自己研鑽の心を育成する。②③	A		
	情報モラルを確立させる。	情報化社会の問題点を捉えることを重点課題とし、情報モラルについて年間を通じて繰り返し指導する。②	A		
		情報をめぐる具体的な問題事例を取り上げて、その改善策を考えさせる。①②	B		
教務部	授業の充実による基礎学力の定着と学力向上を図る。	各教科と連携し、生徒の実態に即した教育課程の編成および運営に努める。③	A	A	・ICTを活用した授業の研究・推進及びコロナ禍での学習機会確保 ・教員の授業スキルの一層の向上と、個々の生徒の理解度に応じた「わかる授業」の展開 ・生徒の自主学習の習慣づくりの支援 ・各学年や各教科、進路指導部との連携による、生徒の学習到達度や進路希望に応じたきめ細やかな指導体制の構築
		シラバスを活用し、年間を通して計画的な授業展開を行う。ICTを活用した授業の研究、実践を進める。①③	A		
		研究授業等を通して授業スキルを向上させるとともに、ユニバーサルデザインを意識し個々の生徒に配慮した「わかる授業」を研究、推進する。③	B		
		学習活動アンケートを実施して生徒の授業理解度や学習状況を把握し、授業改善に繋げる。②	B		
	校内におけるICT環境整備に努める。	各普通教室及び特別教室等に整備する教育用コンピュータや周辺機器の管理を行う。①⑮	A		
		校内LANやインターネット接続等、ネットワーク環境の整備に努める。①⑮	A		
		ICT環境の保守管理にあたり、情報セキュリティの確保や個人情報の保護、コンピュータウィルスへの対応に留意する。①	A		

別紙様式2（高）

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
生徒指導部	基本的生活習慣の確立を図る。	きちんとした身だしなみを身に付けさせる（頭髪・服装指導の定着）。⑤⑥	C	B	・基本的生活習慣（身だしなみ・時間）の定着および自己管理能力の向上 ・交通関係や問題行動（薬物・スマホ等）への予防計画 ・ルールの見直し（形骸化しない）および共有方法の模索
		自ら環境等を整える態度を育成する（段階的指導による自己指導力の育成）。⑩⑪	B		
		礼儀・挨拶、言葉遣い等の基本的マナーを身に付けさせる（声かけ指導）。⑤⑥	B		
		時間を守って生活できる習慣を育成する（遅刻指導等）。⑤⑥	B		
	生徒が自己実現を図るうえで必要な自己指導能力の育成を目指す。	問題行動への予防・解決に努め、生徒を健全育成する（家庭訪問・個人面談等の実施）。⑥⑩⑪	B		
		学校・家庭・地域・関係機関等と連携して生徒の健全育成と社会的自立を図る。⑩⑪	B		
	交通安全指導の充実を図る。	登校指導等による道路交通法の励行・交通安全講話を実施する。⑩	B		
進路指導部	生徒の進路意識の向上と適性に応じた進路選択、自主的な進路活動を支援する。	3年間を見通した進路計画を見直し、各学年と目的や内容を共有した上で計画的に実施することで、生徒の発達段階に応じた進路に対する意識を向上させ、学習意欲を高める。⑦⑨	B	B	・進路目標や3カ年進路計画（進路ガイダンスの内容や時期等）の見直し ・進学希望者に対する支援体制の強化（指導計画・体制の構築） ・進学先・就職先についての情報発信、新たな大学・企業の開拓 ・進路に関する業務内容を可視化と、役割分担
		キャリア教育の一環として、インターンシップや職業人講話、職業ガイダンスを計画・実施し、職業観・勤労観を身に付けさせる。⑧	A		
		進路のしおりや情報誌等を提供することにより、生徒の自主的な進路活動を支援する。⑦	B		
	大学進学に向けた進路指導体制の充実を図る。	各教科と連携を図り、放課後や長期休業等において学力の向上に向けたセミナー等を計画・実施する。③⑦	B		
		各学年と連携を図り、外部模試を計画・実施する。その結果を分析し、生徒一人一人の希望する進路の合格に向けた課題に取り組ませる。②	B		
		定期的に面談週間をもうけ、各学年において生徒の実態を把握し、進学に向けた意欲の向上を図ることで、学習意欲を向上させ、大学進学希望者数を増やす。③	A		
	進路情報の共有と活用に努める。	生徒のデータベースを作成し、進路指導や面談等に活用する。また、学年を超えて、生徒の進路に関する情報を共有することで学校全体で進路指導ができるようにする。⑨	B		
		新課程の導入や入試制度の変更に向けて情報収集や研究に努める。③	B		
特別活動部	キャリアパスポートを活用し、生徒が主体的に活動するための支援を行う。⑫	各種生徒会行事に対して、生徒が自主的に活動・運営できるように支援する。⑩⑪	A	B	・コロナ禍の中の学校行事運営方法の模索 ・アンケート回答率の向上 ・Toriny Channelの生徒の主体運営と活用 ・生徒会の主体的活動支援 ・役割と担当の可視化 ・業務量の均等化 ・ルールの見直しと共有方法の確立
		生徒が、地域貢献活動に主体的に参加できるように支援する。⑤⑥	B		
		アンケートをもとに、生徒の活動環境を改善するための支援を行う。②⑤	B		
		部活動の活動の質を高め、生徒の健全な心身の育成と学校の活性化につなげる。⑬⑯	A		
		広報委員会を中心として、学校PR活動が活性化するよう支援する。⑫⑮	B		
保健安全部	各種検診を完全実施する。	広報・伝達の徹底を図る。（学経2-4）	A	B	・環境整備や清掃に対する生徒の意識の向上 ・整備委員会生徒による清掃状況確認の月1回の活動化 ・教員の救命措置に対する資質能力向上
		学校医との連携を図る。（学経2-4）	A		
	教育相談の充実を図る。	生徒・教師・保護者との連絡を密にする。（学経2-1、2、3、4）	A		
		スクールカウンセラー及び関係諸機関との連携を図る。（学経2-1、2、3、4）	A		
	環境整備・清掃を強化する。	生徒の意識の向上を図る。⑤	B		
		委員会の活用を図る。⑩⑪⑫	C		
	職員研修の充実を図る。	危機管理防災意識を向上させる。（学経2-5）	B		
		スクールカウンセラーを交えたケース会議を開催する。（学経2-5）	A		
		AED講習会を開催する。（学経2-5）	D		
	性教育意識を向上させる。	知識の理解と啓発を図る。⑩（学経2-2、3）	B		
		生徒の実態に応じた性教育講演会を実施する。②⑩⑪	A		

別紙様式2（高）

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
渉外部	保護者や地域住民に情報発信をする。	PTA新聞「あおい」を年2回発行し、学校およびPTA活動に関する情報を外部へ発信する。⑦⑫⑬	A	B	・コロナ禍におけるPTA活動の機会確保，活動の在り方についての保護者を交えての検討
		生徒広報委員会の活動を通して、近隣中学校や地域住民に学校の情報を発信する。⑪	B		
	保護者が参加しやすいPTA組織づくりをする。	定例会・各種専門委員会の開催により、PTA役員・保護者との連携に努める。⑦⑩⑭	C		
		PTA総会を開催し、PTA会則の見直しや保護者の負担軽減を図る。⑭⑮	C		
		生徒指導部及び各学年との連携を図り、学年委員協力の下、年2回（1学期末及び2学期末）登校指導を行う。⑤⑩⑪	B		
	同窓会との連携を図る。	同窓会役員会への出席と同窓会入会式の実施を支援する。	A		
図書部	図書館の環境整備に努める。	本校の現状と教育目標をもとに配架計画を立てる。（学経2-1）	A	B	・読書習慣の定着並びに不読率解消のための校内一斉読書と学級文庫の有効活用 ・学習センターとしての機能の充実 ・魅力ある学校図書館としての環境整備 ・読書習慣の重要性周知のための広報活動
		利用価値が低い図書を除籍・廃棄し、図書資料の充実を図る。（学経2-2）	C		
		電子黒板の活用等を通して、学習センターとしての機能を充実させる。①⑨	B		
		配架する図書のデータベース化を行う。（学経2-1）	B		
		各教科と連携を図り、図書の購入計画と活用計画を立てる。（学経2-5）	B		
	読書習慣の定着を図る。	図書館便り・学校行事等を通して読書の楽しさを伝え、読書習慣の定着を図る。（学経2-2、⑩⑪）	C		
		生徒図書委員と図書担当職員の研修に努め、活性化を図る。（学経2-1、⑩⑪）	A		
第1学年	基本的生活習慣と学習習慣の確立を図る。	学習することの意義を理解させ、計画的な学習習慣の確立を目指す。②④	B	B	・遅刻や服装・頭髪で問題のある生徒の継続的指導（〇〇強化月間継続） ・行動に責任を持ち、その場に応じた行動をできる人材の育成（主体的な活動をの増加） ・重点的に行う項目を意識的に選び、月や学期ごとの強化項目として運営 ・家庭学習の習慣化、特に学習意欲の高い生徒へ課外授業を実施 ・進路開拓へ積極的な取り組み
		基礎的学力の養成と、家庭学習の習慣化を図る。④	B		
		礼節を重んじ、節度のある高校生活が送れるよう指導する。⑥	B		
		提出期限の厳守、登校状況、服装容儀などの基本的生活習慣の確立に努める。⑤	B		
	進路意識の醸成と適切な進路選択の支援を図る。	発達段階に応じて適切に計画を立て、進路意識を深める。⑦	A		
		職業を知り、自己を見つめ、自分の適性に応じた進路選択を支援する。⑨	B		
		望ましい職業観を育成し、早期に進路意識を確立させる。⑦	B		
	環境適応能力を身に付け、心身の調和がとれた人物を育成する。	自己肯定感を高め、自己の可能性を開発できるよう支援する。⑪	B		
		社会に積極的に関わり、他者に配慮できる人材を養成する。⑩	B		
		自分の言動に責任を持ち、場に応じた言動が取れるようにする。⑤	C		
第2学年	基本的生活習慣と学習習慣の確立を図る。	授業を大切にする意識を醸成し，学習意欲を高める。②④	B	B	・進路決定後を見据えた服装容儀などの基本的な生活習慣の確立 ・各種調査による生徒の状況把握や適切な進路情報の提供 ・進路指導部との連携した進路支援体制の整備 ・進路活動へとつながる学習環境の整備 ・家庭学習習慣の確立
		基礎的・基本的な学力の養成と定期考査への計画的学習の習慣を図る。④	B		
		提出期限の厳守、登校状況、服装容儀などの基本的生活習慣の確立に努める。⑤	B		
	進路活動の支援充実を図る。	進路ガイダンスなど進路に関する情報収集の機会を設け、自身の適性や希望に応じた進路選択ができるように努める。⑨	B		
		面談等で得た情報を統一的に管理し，生徒の進路実現に向けて細やかな指導に努める。⑮	A		
	社会に求められる人材を育成する。	規範意識及びマナーを身につけ、時と場や目的に応じた立ち振る舞いができるように支援する。⑥	B		
		各生徒に役割を与え，自己肯定感を高められるよう支援する。⑫	A		
		ホームルーム活動や学校行事などを通し、所属する集団(クラス・学年・学校)に貢献する意識と行動を育てる。⑪	A		

別紙様式２（高）

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
第3学年	基本的生活習慣と学習習慣の確立を図る。	自己指導力を育成し、服装、頭髪や規則を守るなど、けじめのある行動を身に付けさせる。⑤⑥	B	A	・生徒が節度を守って過ごすことができる学校生活環境、学習環境の整備、維持 ・希望進路の実現に向けて生徒が主体的に学習に取り組むための継続的な指導、支援 ・一般入試を希望する生徒の指導のあり方 ・学年団で協力しての、一貫性のある継続的な生徒対応
		基礎的・基本的な学力の養成と定期考査への計画的学習の習慣を図る。②④	A		
		進路実現への意識を高めると共に、放課後等の学校における学習場所・学習時間の確保や、スタディサプリの利用を促進するなど、学習環境を整えることで学習意欲を高め、基礎的学力の向上を図る。①③	B		
	進路実現のための支援を充実させる。	外部講師なども活用し、進路先や就職に関する情報の整理や面接等への準備をさせる。さらに、担任による面談や多くの教員が係わり適切なアドバイスを行うことで、生徒の希望に応じた進路決定ができるようにする。⑦	A		
		総合的な学習の時間を計画的に実施し、進路別コースの充実を図る。⑨	A		
	社会に求められる人材を育成する。	規範意識、ルール・マナーを身につけ、時と場と目的に応じた立ち振る舞いができるように支援する。⑤⑥	A		
		学校行事などを通して、自己管理能力を向上させ、日頃からPDCAサイクルを持って生活するよう支援する。⑫	B		
		所属する集団(クラス・学年・学校)だけでなく、社会への所属意識と貢献できる行動力を育てる。⑩⑪	B		

※評価基準: A:十分達成できている　B:概ね達成できている　C:あまり達成できていない　D:不十分である